『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』
～ 青木 棟二 ～

生年月日・出身地不明。
1990年（平成2年）岡崎地方史研究会発行の「研究紀要第18号」P76に、1921年（大正10年）の青木棟二の名刺が紹介されています。
（雅号）陽山　（住所）中町　（職業）薬・化粧品

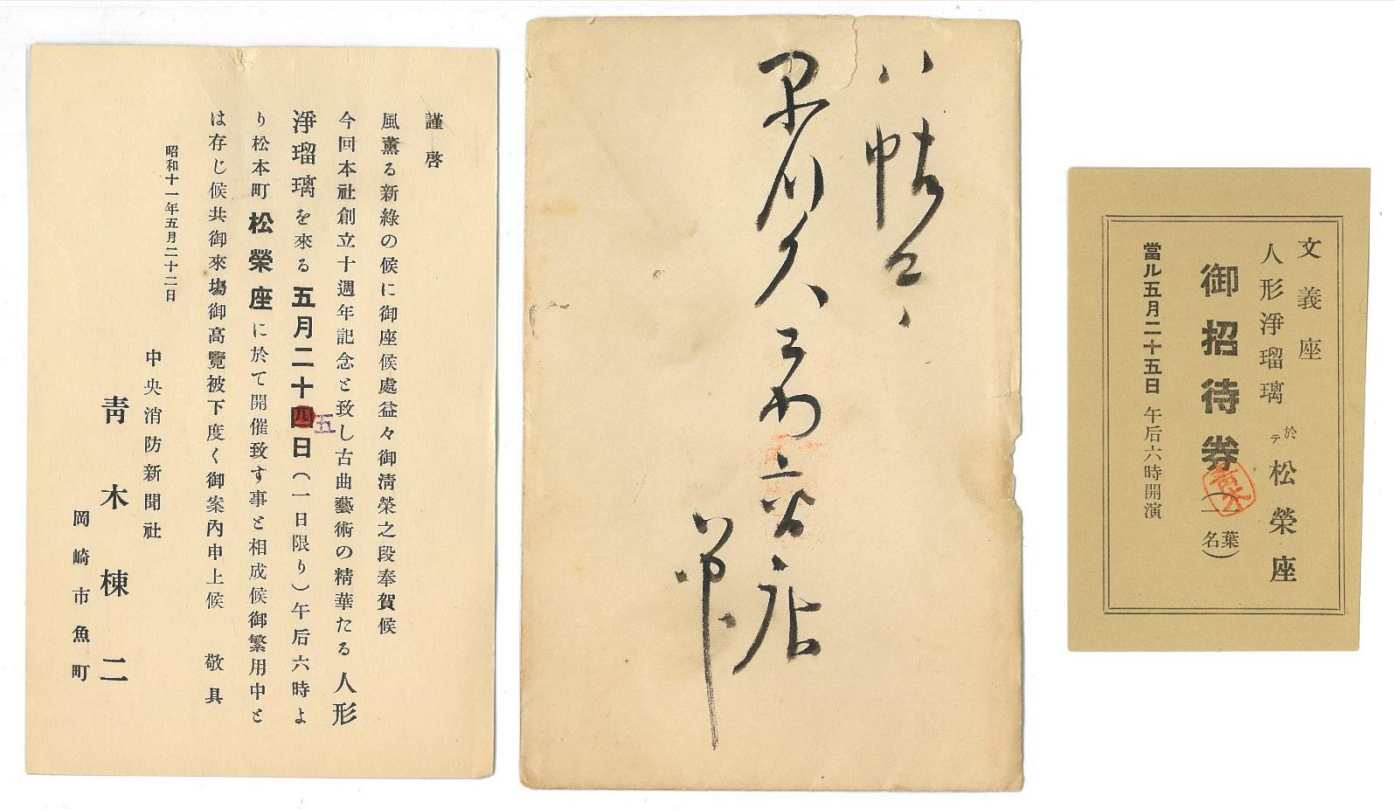
1936年（昭和11年）カクキュー宛に頂いた案内状には「中央消防新聞社　青木棟二　岡崎市魚町」とあり新聞社勤務をされていた様です。

岡崎市には古くから浄瑠璃姫と義経の悲恋物語が伝えられ遺跡・遺物と言われる物が多数あります。その一つが岡崎城公園入口の東にある浄瑠璃姫供養塔です。
1926年（大正15年）には池上年の設計による墓標柱「浄瑠璃姫之墳（はか）」が建立され、その玉垣には竹本津太夫、ベルツ花子らと共に青木棟二（＝青木春美太夫）の名前があります。また「浄瑠璃姫之墳」側面には発起人として地元の政官財界人や知識人らの名前が刻まれており、早川久右エ門（17代）の名前も確認できます。また、400人余の浄瑠璃姫古墳保存会会員の名前も刻まれております。

この保存運動は全国に注目され、1936年（昭和11年）4月には大阪の「文楽座」から竹本津太夫一門が岡崎にお越しになり人形浄瑠璃を公演し、その入場料全てを保存活動に充てるようにと市に寄付され話題になりました。また公演前日には岡崎公園巽閣で「竹本津太夫師を迎え浄瑠璃姫を偲ぶ座談会」が開催されました。この座談会の広告（新聞）には「発売所 魚町 青木棟二」とあります。

当社史料室には昭和時代に青木棟二からカクキュー宛に送られた松本町「松栄座」の人形浄瑠璃の案内状と招待券が残されています。

浄瑠璃姫関連記事について、詳しくは2024年（令和6年）発行嶋村博氏著「みどりや主人の大正・戦前昭和」をご覧ください。



謹啓

風薫る新緑の候に御座候處益々御清榮之段奉賀候

今回本社創立十週年記念と致し古曲藝術の精華たる人形

浄瑠璃を來る五月二十四日（一日限り）午后六時よ

り松本町松榮座に於て開催致す事と相成候御繁用中と

は存じ候共御來場御高覽被下度く御案内申上候　敬具

昭和十一年五月二十二日

中央消防新聞社

青木棟二

岡崎市魚町

文義座

人形浄瑠璃於テ松榮座

御招待券（一名葉）

當ル五月二十五日　午后六時開演

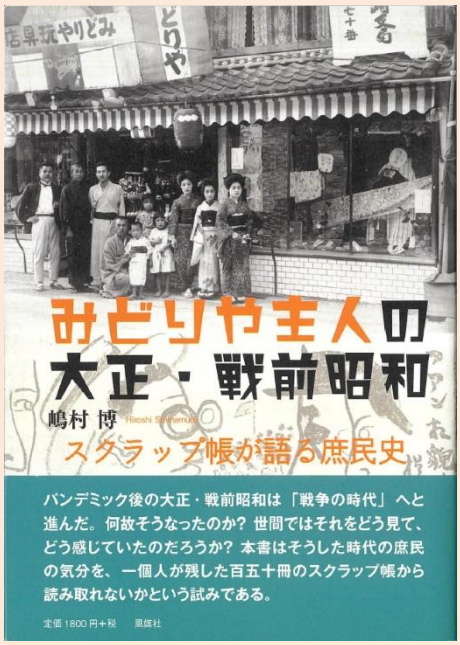
青木棟二から届いた案内状と招待券（昭和 11 年 5 月 22 日）

＜浄瑠璃姫供養塔＞

浄瑠璃姫之墳（墓標柱）とその玉垣

左：青木春美（＝青木棟二）

右：早川久右エ門（17 代）



59　昭和十一年　浄瑠璃姫フェスティバル

昭和十一（一九三六）年の春、全国の眼が岡崎市へ集まった。松井弘の スクラップ帳にその記事（写真A）がある。「浄瑠璃姫の墓改修／津太夫も一肌／一門を引具し岡崎で出演／入場料全部を提供」の見出しに、「古典藝術義太夫界の最高峰を行く文楽座の紋下が前例のない劇場で無報酬の出演をなし入場料の全額寄付を申出たといふ近来珍らしい藝界ニュース」というものである。

文楽座は大阪にあった人形浄瑠璃の劇場で、古典芸能の殿堂。そのスーパースターである竹本津太夫一門が、一地方都市にすぎない岡崎で公演し、その入場料の全てを寄付するというのだから世間は驚いた。記事によると、岡崎市で「浄瑠璃伝説上重要な地位を占めている浄瑠璃姫の墓が発見された」ことがきっかけらしい。

姫の墓（写真B）の発見は大正期の国道一号線拡張工事の時である。浄瑠璃姫の墓かどうかは別にして古い様式のものであったようだ。発掘調査の指導は池上年（当時岡崎商業学校教師、後に石造美術研究所所長）と石田茂作（当時岡崎師範学校教師、後に奈良国立博物館館長）。墓の保存運動は稲垣豆人（当時岡崎瓦斯勤務）が中心となったことは、以前にも書いた（本書32話）。池上も石田も稲垣も、松井たち岡崎趣味会の仲間である。

岡崎趣味会が中心となった浄瑠璃姫墓の保存運動は全国に注目され、夢の津太夫公演となった。岡崎市も動いた。記事は「姫の六百七十年忌／五月三日がその忌日／岡崎市では遠忌祭を執行する計画をたて」と、さらに「…一方市当局でも全市をあげてこの発見を記念するため来月一日から七日間諸種の催しを行ひ、右姫の霊を慰めることになってゐる」という。遠忌祭の計画とは、文楽座の出演、東海六都市素人太夫競演の浄瑠璃大会、浄瑠璃姫の遺品展覧会、研究者愛好家を集めた姫を語る夕の開催であった。まさに浄瑠璃姫フェスティバルである。

さて、竹本津太夫の公演は四月二十五日に岡崎劇場でおこなわれた。「浄瑠璃姫遺跡玉垣献納／竹本津太夫　鶴澤綱造一行／當ル四月廿五日　岡崎劇場／座談会二十四日岡崎公園　巽閣／主催浄曲十二日會」との新聞広告（写真C）が帳に貼ってあった。このとき献納された玉垣は現在も残る。

A
浄瑠璃姫の墓改修
津太夫も一肌
一門を引具し岡崎で出演
入場料全部を提供
竹本津太夫さん
B
C
浄瑠璃姫遺跡玉垣献納
竹本津太夫一行
鶴澤綱造
◇會員券金壹圓（市内各所にて發賣）
當ル四月廿五日午后四時開演
岡崎劇場
竹本津太夫師を迎え
浄瑠璃姫を偲ぶ座談會
日時 二十四日午后六時
會場 岡崎公園 巽閣
主催 浄曲十二日會

「みどりや主人の大正・戦前昭和」（嶋村博著、2024 年 3 月 10 日発行、風媒社）より

2025.2.4